

第1回 北九州市文化財保存活用地域計画検討会 会議録

開催日時:令和 8 年 3 月 30 日(月) 13 時 15 分~14 時 45 分

開催場所:市役所本庁舎 5 階 特別会議室B

出席者

【委員】

荒木和憲・柴田加奈子・南博・前園廣幸・内田晃・井上龍子・小石富美恵・岩崎ひより

【オブザーバー】

杉原敏之(福岡県教育庁文化財保護課参事兼課長補佐)

【事務局】

都市ブランド創造局長、総務文化部長、文化企画課長、埋蔵文化財担当課長、
文化財係長、文化財係員 2 名

【コンサルタント業者】

株式会社フジヤマ 社員3名

【会議の公開・非公開について】

公開

議事概要

1.座長選出

委員の互選により、内田晃委員を会長として選出

2.協 議

議事(1):北九州市文化財保存活用地域計画策定事業について

内容:文化財保存活用地域計画の概要と、今後の作業工程について事務局より説明
を行い、委員からの質問や意見を伺った。

前園委員:地域計画作成にあたっては、県の文化財大綱を反映させる必要がある。ま
た、関門地域については下関市との関連性を考慮する必要があると思う。

事務局:作成にあたっては、県の大綱を踏まえて作成していく。また下関市はじめ近
隣市町村の歴史文化を考慮しつつ作業を進めたい。

南委員:工程表に文化財関連団体との協議が入っているが、有形・無形を問わず、所
有者や保存団体との意見交換は行う予定はあるか。

事務局：現状では具体的な計画まで立てていないが、ご意見を踏まえ、工程に組み入れたい。

南委員：是非、そうして頂きたい。3年目にパブリックコメントが予定されているので、その前に実施して欲しい。

議事(2)：北九州市の歴史文化の特性について

内容：北九州市の歴史文化の特性について事務局が説明を行い、各委員が考える北九州市の歴史文化の特性についてご意見を伺った。

荒木委員：交通の要衝という点が、一番の印象。内陸交通、海上交通など複数の交通路が市内で交錯、連結していることが特徴であると考えている。特に関門海峡については、先ほど話に出たように、下関市との関連を考えることが重要。

柴田委員：豊前・筑前という2つの文化圏にまたがるのが特色だと思う。また、各地区の祭りや盆踊りなど、それぞれの地域独自の伝統が色濃く共存している部分もあり、(地元を愛する)市民の気質が表れているのではないかと思う。

南委員：関門海峡は日本の近代化に大きな役割を果たしており、北九州市を特徴づけるものと思う。また、有形の文化財だけでなく、例えば八幡製鐵所の社員による文化活動など、総合的に文化財の特性を捉えていく必要がある。

前園委員：自然遺産や縄文海進などの環境変動、西海道をはじめとする交通網の発達、また中世山城や近現代の戦争遺跡など、多様な文化財が存在することが大きな特徴。また、金山などの鉱物資源の存在も注目される。

井上委員：八幡製鐵所の設立は、八幡地区だけでなく、その他の地区の建造物や都市計画など市域全体に大きな影響を与えたと考えている。また「文化財」の概念やカテゴリーの目安を作っておく必要があると思う。

小石委員：近代化を経由した文化財が非常に多く、工場だけでなく、交通の要衝や経済の中心であったことを示す建築物が現存している。また食事や景観など、来訪される方に文化の深みを感じて頂けるような計画になれば良いと思う。

岩崎委員：5市合併によって生まれた都市であり、各区に産業があり、暮らしが成り立っている点が特徴だと思う。全体を包括する軸と、各区の文化を掘り下げていってまとめる必要があると考えている。

内田座長：平成・令和の時代の遺産も文化財として捉えられるのか、検討が必要。北九州空港の開設や、学研都市の完成などのインフラ整備、また現代のイベントや食文化など、新しい文化の掘り起こしをしても面白いのではないか。

杉原(県オブザーバー)：地理的特性が交通の要衝となり、文化の発信地となっているのが北九州市。エリアごとの特性を踏まえつつ、全体としてどのような特性を示しているのか、まとめていくのが悩みどころになってくると思う。

3. 閉 会

事務局：歴史文化の特性や、ご指摘のあった「文化財」の定義や分類について、今後、委員の皆様のご意見を踏まえつつ、進めていくことを確認。各委員に「北九州市の歴史文化の特性に関する意見聴取シート」を配布し、4月30日までの回答をお願いした。